

図書だより

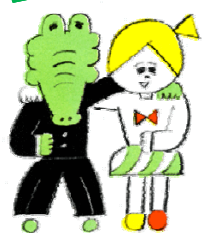
白楊高校図書館 2014.3.18

こんにちは！

何だか春めいてきた今日この頃。いかがお過ごしでしょうか？司書は、まだ花粉症デビューはしていませんが、今年はクシャミが普段の1・5倍ぐらい出ることに気づいてしまいました。そろそろです。そんなことより、まもなく今年度が終わりますよ！早いものです。今学期は1年生が「進路考えなきゃ！」と言っていたり、2年生が「もうすぐ3年生だし！」と、図書室で勉強している姿がチラホラありました。学年が上がるにつれて、何かしらの心境の変化があるのですね。毎日ノホンと過ごしている司書も、そんな皆さんから、少なからず刺激を受けております。でもこの気持ちをどうしたらいいのか分からないので、ひとまず仕事にぶつけてみます！とにかく何か頑張りますので、来年度も図書室をよろしく願います！



銀の匙11巻も
あります！



2013年、
このミス1位！



ノックス・マシン
(法月綸太郎)



Story Seller
annex
(有川浩、湊かなえ他)



人気カフェのスムージーが
自宅で作れる！
(平野奈津)



ミドリムシ大活躍！
(石川憲二)



終物語 中
(西尾維新)

新刊コーナーですが、本を大量に入荷した為いつもの場所に収まりきらず、隣の丸テーブルも臨時新刊コーナーとなっています！是非、春の特別貸出期間中を利用して沢山借りてください！



RANKING



3月14日
調べ。

1	悲報伝 / 西尾維新
2	人生はニャンとかなる！ / 水野敬也
3	永遠の0 / 百田尚樹
3	風邪とごはん / 渡辺有子
3	Arknoah 1 僕のつくった怪物 / 乙一

3学期の図書館ランキング1位は、西尾維新「悲報伝」！〈物語〉シリーズと並んで、最近はこの〈伝説〉シリーズも大人気です。2位の「人生はニャンとかなる！」は、カワイイ猫の写真にマッチした偉人の逸話・格言で、人生で大切な教訓が学べる新しいタイプの本。3位「永遠の0」は百田尚樹の超名作。ついこの間映画化もされましたね。「泣いた！」報告何度も受けています。先生からも。そして、この季節ならではのレシピ本「風邪とごはん」、乙一名義では久しぶりの新刊「Arknoah 僕のつくった怪物」も沢山借りられました。

★今年度1番貸出数が多かったのは川村元気著「世界から猫が消えたなら」でした！ちなみに漫画の一位は「銀の匙」！映画も面白いみたいです！

クラス別貸出冊数ランキング！

	1	2	3	4	5	6	7
1学年	149	283	500	233	172	122	202
2学年	272	427	308	84	175	93	187

今年度の優勝は1-3でした！1-3の生徒達の本の借り方って、勢いがありますよね。2位は2-2、3位は2-3という結果でした！来年も優勝を狙ってドシシ借りましょう！優勝すると何か良いことがあるかも！



お知らせ①

★17日(月)より春の特別貸出開始致しました！いつもは5冊までのところを10冊まで借りられるお得なチャンス！春休み最終日までが期間となっていますので、お見逃しなく！
★春休みの閉館日・・・毎週土日
急遽閉館する場合は昇降口のガラスケースに掲示致します。



お知らせ②

各クラス学級文庫の整理整頓も兼ねて、古くなった本を集め17日～20日の間、昇降口にて古本コーナーを設置致します。早い者勝ちです！お好きな本を持って行って下さい！掘り出し物もあって楽しいですよ。去年は司書もコッソリ1冊頂いちゃいました！

古本市！



先

生

の

オススメ



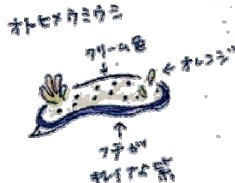
今回オススメの本を紹介して下さる先生は、
食料のキレイなお姉さん、小菅先生と、
来年度からとうとう図書だよりで連載決定、
大木先生です！



食品科学科
小菅育子 先生



画：美術部



白い線の数で見分ける
クマノミ 2巻, ハマクマノミ 1巻, カクレマノミ 3巻

画：小菅先生

大木先生
卵を守つたがに
ガツガツ
いくぞ。



上：「不思議ないきものウミウシ」
バイインターナショナル
下：「世界の美しい魚」
バイインターナショナル



こんにちは。食品科学科の小菅です。趣味は、マニアックな本を図書室でリクエストして、それを読んでいる人を陰から「あ、同類だ♡」と、こっそり眺めることです。そしてもう一つの趣味がスキューバダイビングです。海には重力（と日常）から解放される自由と生き物たちのドラマと、たくさんのお会ひがあります。海のお魚…という、有名な映画「ニモ」で有名なカクレマノミでしょうか。まずはこのカクレマノミが表紙の本「世界の美しい魚」という本をご紹介します。色とりどりの魚の写真がウツトリさせてくれます。ちなみに、カクレマノミは性転換をする魚です。人間の世界で性転換というと、なんだかアヤシイ話になってしまいますが魚の世界では割とよくあること。しかも一方通行ではなくその時々群れの状態によって、一度メスがオスになったけれど、またメスに戻る、ということもあるそうです。ちなみに、ニモのお話は映画では親子愛にあふれたほんわかストーリーですが、現実ではお母さんが大きな魚に食べられてしまったので、お父さん（マーリン）がお母さんになります。仔魚は孵化して浮遊生活をおくるので、ニモは実は本当の子供ではなくて、オスカメスカもわかりません。お父さんからお母さんへ変わったマーリンは、ニモを無事救出して仲良くイソギンチャクへ戻り、ニモは雄になって、マーリンと夫婦となり仲良く暮らし沢山の卵を産み育てました（血は繋がっていないので問題なし）ということになります。あれ、なんだか夢を壊しちゃいましたかね？！

そしてもう一冊が「不思議ないきものウミウシ」という本です。ウミウシって知っていますか？知っている方はかなりの海好きですね。知らない方にわかりやすく言うと、ズバリ「海中にいるカラフルなナメタジ」です。巻貝の仲間ですが貝を持たず、数ミリのものから30cmくらいまで大きさはさまざま。色がとにかくカラフルで、なんともフォトジェニック。そして私的にポイントが高いのが1つ1つにキュートな名前が付いているのです。例をあげるとバイナブルウミウシ、アデヤカミノウミウシ、シンデレラウミウシ、インターネットウミウシなんつもの。海でお気に入りの子に出会えた時、そしてそれが上手に写真に撮れたときの感動といった言葉にできません。さて、これを読んで海や魚に興味を持ったあなた！マニアックな世界にようこそ！こちら側でお待ちしております♡



英語科
大木弘行 先生



左：「ぶらんこ乗り」
新潮社
中：「プラネタリアムのふたご」
講談社
右：「みずうみ」
河出書房新社



『AKB48』の名前の由来は旧ソ連の『AK47』（1947年式カラシニコフ自動小銃）に違いない！

「人は悲しみが多いほど人には優しくできるのだから〜♪」と歌う長髪の中学教師の顔面に腰の入った右ストレートを叩き込む夢を見た朝は爽快。人は悲しいつらい体験ばかりしていると性根がねじ曲がり世を拗ねるようになるのが道理。「若いころの苦労は買ってでもしろ」なんて戯言。辛い思いなどしないで済めばそれに越したことはないわけで、なぜ先人は若者たちにそのような意地悪を謂うのかというと、おそらく人は年をとると自然と気力・体力・精力・胆力・理解力・回復力等々が減退。その期におよんだ苦労というのは如何にもキツイ。「どうせ避けられぬ苦労なら若いうちにしておいた方がまだまし。」くらいの意味合いであろう。たぶんね。

ところでわたくし「悲しい」と「優しい」は似ていると思うのだが如何。悲しみと優しさはそれを感じるころの部位が非常に近いような気がするのだ。それらはどちらも身体を中心から立ち昇り全身に広がる感情で、その核はほんのりと温かい。悲しくて涙が出そうとき自分の心の中をそっと覗いてみるといい。身を切るような痛みのずっと奥底にほんのりと温かなものがあるのに気づく。その「温かさ」は「優しさ」と同質のものだと思うのだが如何。というわけでやっと本題。

諸君は「いしいしんじ」という作家をご存知だろうか。すべてひらがな、しかも曲線のみで構成されたこの名前の「ほんわか感」が彼の作品に共通する特徴でもあり「看板に偽りなし」って感じがちょっとステキ。この作家、もともとは画家志望で芸大受験に失敗し挫折、京都大学の仏文科を卒業後リクルート社で雑誌の編集に携わるがある日突然「シーラカンスの刺身を食べてみたい」と思い立ち、会社から休暇をもらいコモロ（インド洋西部アフリカとマダガスカルの間に位置する小国）旅行に。お目当てのシーラカンスには出会えなかったものの旅先で書き溜めた絵が注目を集めデビューし退職という経歴もユニーク。で、彼の一連の作品を一言で言い表すと「やさしかなしいもの」がたり。優しい人たちの心温まる物語が語られているにもかかわらず作品全体がなんとなく不穏な悲しみのヴェールに包まれているという不思議な感覚。泣き疲れて眠りに落ちる寸前に、体の芯がほんの少しだけ温かくなっていることにふと気づいたような読後感。

個人的なお薦めを幾つか挙げると、何にでも夢中になってしまう男が寒い国からやってきた風船売りの少女に恋をする『トリツカレ男』。声を失っても動物と会話ができる弟との思い出を姉が回想する『ぶらんこ乗り』。星の见えない村のプラネタリアムで拾われたふたごの運命を描いた『プラネタリアムのふたご』。そして最近読んで「いしいしんじは村上春樹を越えたか？」と鳥肌が立った『みずうみ』。興味がある人は『ぶらんこ乗り』か『プラネタリアムのふたご』あたりからチャレンジしてみたらどうだろう。ぜひぜひ。

「サバナの像のうんこよ聞いてくだるいせつないこわいさみしい」
歌集『シンジケート』（穂村 弘）より